

第101話 蔵王山の噴火 中山町歴史散策

本町より東にそびえる蔵王山は、江戸期に至っても爆発・噴火・悪水の流出を繰り返しました。

噴火は、大量の火山灰を空中に放出し、これが日照を妨げたため、噴火の影響から幾度も冷害がありました。

蔵王山の噴火の記録の中でも、元禄7（1694）年5月には刈田岳より噴火し、7月には火口より硫黄を噴出しましたが、これが流水と混じった酸性水となり山形側の河川の魚が全滅しました。

また、8月には、大地が揺れ動き、どうどうという音が天に響いたと記録されています（「山形災異年表」）。

寛政6（1794）年9月の噴火は、硫気を噴出し降灰が多く最上領に運ばれて雪の如く草木に積もったと伝えられています。

文政3（1820）年2月の蔵王山噴火では、伊達領に熱湯が流出し、濁水2丈余となつて沢を下りました。

また、慶応3年の時も蔵王山が噴火し、10月には熊野岳が破裂し硫黄水2丈余の深さで山形側に押し下つたと言われています。

これらの噴火は、作物に大きな被害を及ぼしたと考えられますが、達磨寺村、長崎村などの須川流水による灌漑を不能にしたのは、元禄7年の刈田岳爆発でした。

押し出された酸性水は、須川、蔵王川の水を生物の棲めない川に変えました。

もし、これらの川に硫黄水が流れ込まなかったら、早魃時に難儀することもなかったのでは、達磨寺村の早害も恐らく生じなかったと考えられます。

【用語の説明】

2丈余：尺貫法における長さの単位で、約6mを表す。

※参考 中山町史 中巻 第9章第3節 火災と防災対策

最上川フェスタ2015

7月12日、寒河江市、大江町、中山町の1市2町で組織する最上川活用地域活性化推進協議会主催の「最上川フェスタ2015」が開催されました。

このイベントは、大江町から当町のせせらぎ公園までの区間をゴムボートやカヌーで下り、山形県の母なる川「最上川」に親んでもらおうと開催しているものですが、今年は水位が十分ではなかったため、会場をグリバーさ（寒河江市）に移しての開催となりました。

今年はタイムレースの部に31組、パフォーマンスの部に3組の計34組が参加。リバー広場内のコースで、タイムや仮装、ボートへの装飾の面白さを競いました。

タイムレースの部では、熟練のパドルさばきで快調に飛ばす常連参加者がいる一方で、2人の息が合わずなかなか思うように進んでいないチームも。それでも、参加者は思い思いのペースでコースを進み、ボートの上から自然を満喫。沿岸に集まった人からの声援にも元気に応えていました。



タイムレースの部



パフォーマンスの部

万が一の事態に備えて



7月22日、NPO法人コメリ災害対策センターとの「災害時における物資提供に関する協定」の締結式が役場大会議室で執り行われました。

佐藤町長とNPO法人コメリ災害対策センターの平原雅和ゾーンマネージャーが協定を交わし、災害が発生した場合、または発生する恐れがある場合において、双方が協力して迅速かつ円滑に必要な物資を被災地へ供給できるよう体制を整備しました。

葬儀に関する「事前相談」を無料で承ります。下記フリーダイヤルにてお問い合わせください。



「友の会」会員募集中！（会員特典有）
入会金：3,000円（毎月の積立金なし）



東村山郡山辺町大字山辺417
（有）第一葬祭社 山辺店
フリーダイヤル
☎0120-34-1059



寄附ありがとうございます
ございます

6月28日、東京中山会（石澤良弘会長）より、5万円の寄附金をいただきました。



Time Slip vol.26

今から25年前…
1990年（平成2年）

『町の花“ひまわり”を町内外にアピール』

毎年、お盆の帰省時期に合わせて、国道112号沿線で、中山町の花「ひまわり」が数100mに渡って咲き乱れます。この区間は「ひまわりロード」と呼ばれて広く親しまれ、道行くドライバーの目を楽しませています。

ひまわりが中山町の花として制定されたのは、昭和54（1979）年のこと。ひまわりの大きく生き生きとした花、そして情熱的な輝きが、豊かな自然に恵まれ、未来への発展を目指す中山町を象徴するのにふさわしい花であるとして、町の花に選ばれました。

平成2年5月10日号より



以来、役場をはじめ公民館や学校など町内各所にひまわりが植栽されました。昭和63（1988）年には、国道112号沿線にも植栽されるようになり、前述の「ひまわりロード」が誕生しました。

さらに平成2（1990）年には、町民の皆さんにもっとひまわりに愛着をもってもらいたい、花と緑がいっぱいの美しい町づくりをすすめていくと、ひまわりの種が全戸に配布されています。

こうして徐々に『中山町の花「ひまわり」』が定着してきました。